

わ

が

街

わ

が

故

郷

私たち『日本精工(株)大津工場』と その周辺のご紹介

1. 大津工場の紹介

滋賀の地の古名は近江（淡海／おうみ）。遠淡海（とおつおうみ）に対する、京に近い近淡海（ちかつおうみ）の意です。京の都の近くに位置する交通の要衝であり、琵琶湖という“水の道”に恵まれたことから、日本海や瀬戸内海～淀川経路で古くから「海人（あま）」と呼ばれる渡来人が渡り住みました。彼らは大陸から多彩な文化を伝え、その一つが当時の先進技術である「製鉄」であります。滋賀の地、それは歴史的な“鉄の先進地”でもありました。

戦後の復興も軌道に乗り始めた昭和28年。この“鉄の先進地”に新たな“鉄の技術”の種が撒かれまして。それが動力を支える基幹部品・玉軸受を製造する“西日本精工”の誕生です。その後“日本精工(株)大津工場”として発展・躍進し、昨年お蔭様で記念すべく「50周年」を迎えることができました。今も、大津工場では「深溝玉軸受」を中心にその技術を活かし、いろいろな製品を製造しております。

工場は、写真でお解りかと思いますが、琵琶湖の最南端に位置し、ちょうど工場の前で琵琶湖から瀬田川（実際には川の名称が瀬田川⇒宇治川⇒淀川と変わります）が流れ出ています。琵琶湖と比叡の山並み、そして琵琶湖八景でも知られる比良山系、東側は広大な近江盆地をかかえ、春は新緑や桜並木、夏はマリンスポーツ、秋は紅葉、冬はスキーと1年を通して四季折々が感じられる風光明媚な滋賀県に位置しております。

琵琶湖毎日マラソンのコース

歴史ある「琵琶湖毎日マラソン」＝“オリンピック選考会”等、国内有数の選考会も兼ねた大会が毎年行われ、工場からも選手が出場しています。

市内の「皇子山陸上競技場＝琵琶湖国体開催競技場」をスタートし、工場前の道路を走り、日本三大橋である「瀬田の唐橋」西側を通り、「南郷の洗堰」で瀬田川対岸に渡ります。そしてそのまま瀬田川沿いを上り、草津市との境である「近江大橋」周辺で折り返し、来た道に戻る全長42.195kmでの熱戦です。

レースの日は、従業員はもとより地元選手と



日本精工(株)大津工場と琵琶湖
前方に「大津港」と「比叡山」を望む

